

発行人→医療法人社団
すんとせき

沼津市高沢町6-1
TEL→055-922 8855
URL→http://www.Sunto-Seikei.jp

みなさん こんにちは!! みなさんはGW どう過ごしましたか?
私は、久しぶりに高校の友達と集まったり、たくさん遊びました。
少しずつ暑くなってきました* 水分補給や紫外線対策も
忘れずにしましょう。

今日は院長がリウマチ治療についてお話ししてきます!!

最近のリウマチ治療

院長 清水 学

こんにちは。爽やかな季節となりましたがいかがお過ごしでしょうか?
今日は院長の専門分野である、関節リウマチについて、薬にスポットを当てて
お話ししたいと思います。

まず簡単に関節リウマチについてお話します。関節リウマチは昔からある
原因不明の病気で、「リウマチ」とは古代ギリシア語の「流れる」が語源となっ
ているそうです。文字通り骨や関節が、段々と流れていく姿で、変形して
ゆく病気です。

原因不明の病気に対しては有効な薬はなかなかありませんでした。
しばらくは「アスピリン」に代表される消炎鎮痛剤が主流でした。やがて昭和
30年頃より「ステロイド」が使われるようになり、リウマチの痛みは大幅に軽減
されました。しかしステロイドは副作用の多量で、胃潰瘍、骨粗鬆症、皮膚脆弱、
中心性肥満、易感染などの副作用が問題となってきました。

次に昭和60年頃より、金製剤に代表されるDMARDs(疾患修飾性抗リウマチ薬)
が何種類か開発されましたが、ステロイドほどの大きな除痛効果はなかったようです。
高齢のリウマチ患者さんの中には、今でもDMARDsを服用している方がおられます。

平成11年より抗腫剤の一種である「メトトレキサート」が量を減らしてリウマチ
患者さんに使われるようになりました。これはよけい薬で、今ではリウマチ治療の主流薬
として使われております。ただ量が少くないといえ、抗腫剤の一種なので副作用
に重大なものが多く、使用に当たっては十分な注意が必要で、最近には使用上限も
増加し、より大きな効果も期待できません。益々注意が必要になってきました。

そして、平成15年頃から「生物学的製剤」が使われるようになりました。リウマチの発
症について細胞内伝達物質の「炎症性サイトカイン」に着目し、その中和抗体をマウス
などの他の生物の細胞で生物学的に合成して得られる薬です。(なんと難しいです)現
在日本では6種類ほど使われるようになり、どれも注射薬と点滴の薬と皮下注射の
薬がある。やはり重大な副作用が生じることがあるので、使用に当たっては十分な注
意が必要で、この生物学的製剤により、関節リウマチは良く治るようになり、一度生
じた骨破壊も軽微の場合は改善されるようになりました。

効果的な薬が登場したので、最近ではリウマチ診断されたら、すぐに強力な薬を使用し、
早期に治すことが目標となりました。以前の病名「慢性関節リウマチ」から「慢性」が消え
現在では「関節リウマチ」と呼ばれるようになったのはこのためです。

関節炎、痛んだり腫れたりしてそれ以上続く場合は、一度リウマチ専門医を受診しましょう。